

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

雑学紙屑篋初編

下

3  
3125  
3

9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9

特  
3125  
3

雑話紙屑菴初編

下之卷

十返舎一九著



○ 沐浴の多きに採り出さる薩芋

嫁と姑の骨折ぞん火葬の埋火

秋萩の柳おかくとも嫁の喰するの世の壁は嫁の  
まの柳も落と牡丹餅のくひあまのたふるとも姑にも  
巻ととびおのいさんご非がらるまどせる一とこの風俗も  
洩ての却て悪うんとはまうぬ百人が届きある家の

嫁女おまるとよぶりの内証めて八百屋より大きまる藤子  
芋と二本買並指の蘭主とらふひ一人焼て去てやらんと  
戸棚の奥へあぐかくー浴室お洗て来んといせぬらるる  
その後めて指の老婆よめの林尾と不ぢりり物等の種  
と集めんと金んとせ知らげ不ららるるまのりやぐて産下  
戸棚のせんさくせと下むる隅のころより彼藤子芋と  
付出ーさそいおまるめが我不隠ー一人して喰んと新  
産するりのとらんとらり何の鬼もあま美味さうなるお芋佃  
紙初下はー

何ぞりの欲しきところお丸がゆめそのうちお先磨ー  
焼てせしめお地ささる嫁が鼻ゆせせやらんとお戸匠りの  
兄付らりと一人焼おを火神の灰とわけり多く捨るお全  
大きる赤芋二瓶とそのを人控んてその上へまご灰と批  
消炭をどついで扇でそくくも煮あひ焼を彼ととと  
りて居るころ隣りの内室がみとつまを托びおまのり  
どく火神の側へすりりんで焼くと噓ーかけりおりや芋の  
煮んまを火の煮りこくと思ふどお出まをと出来ねば早く後れ

けし様とかけても世も気がつらず落着きさうつと敷つた不  
 困をさうて存るころ人嫁の湯屋よりかへり来り先刻の  
 芋の気おかまは先とりあむ戸柵をあけて是と云ふ不  
 由きと云ぬ左さそい採しきまじつと心のうちふさうしやう  
 ままどそしらぬ敷して隣家のかきんお挨拶をどするま  
 姑の老婆も嫁がかへりつるお跡迷惑ままどるふらぬ敷  
 あて畑作らぬせさるりの内室さんとさあしあつちふさ  
 芋の灰のあつち取らぬお焦て来るゆゑさうくと自ひがすあそ

然初下口三

まるまの内室さんこまどかたつ子桑のさたせむくさせあ  
 マヤ何うさきう考まのあわいが志年うすホニ是ハお芋の焦さ  
 自ひこつてまきて嫁のころづれたるお袖たましあわつて東はさ  
 トあむくはをせむくおまの姑の老婆ハもう日らうとさひるさ  
 るおサ今様のあつちあつちお芋の皮とささうう大あをまき自ふ  
 のごらうヨトままだらうてみるうちお灰のあつちくくのうたの取  
 おさなあるが一寸あいてき不う糠がふらうくとおるとよあひを  
 つけてささとせ戸柵かへり年一芋のやあこのさうと云ふあだ

ヤ慈母さん灰のりふ河うそぐてあまのゑぬせんり宛があい  
けバ出ますヨトしんを突て姑の老姥のるむさんをうらさうらうら  
う花あう隠せるどけいかさんと思ひアハ宛ううと云うう火  
のせぬんちふくと灰をうら大方面のりをううをうてあつと  
のどらうトのりうら味ゆそれの方へおさな宛がちよいと出来よう  
あうト糖が出ると芋のこげら旬ひが家ぢうふもびつてをんた  
家の門口のどくろまごぢうぬ敷ぬ姑の老姥のるむ宛を  
雲んるとさうふ灰とりつうかかするの灰落くあつて芋の底

張初下ロ三

尾がをりし一歩をさるりのまごぢうが早くへるけヤア灰のり  
ううお芋が出るとえまごぢうの足をもせんうさるくホニハ芋が  
ぢうど下をドめてをん付さうりつとて大箸でひやつくり  
芋はかたくうまう煮候もやぐまごあわくとこうとうみんを  
つとせのゆのさめくううめううよ換目でとまををろくつさ  
ううアノ慈母さんお夜合のうらなをうてあげませうと云う  
お芋を戸棚へおくまごぢうとぶどうらそのお芋のやうにゆたいます  
とこらばれもとりあへたアそのお芋のりも煮さるの先刻りごうら

あらう ねえさんおあまの 誠にお茶がねえさんよいか茶々あつこ  
 焼てゆいさきさきいめごとととととと戸木のるをきこくお茶  
 ぐあつこのおねえさんぐあまおあつてきこくお茶とねえさん  
 てあまのどらう 何みても涙に及ようつこお茶のりのお茶さんふ  
 上様トお茶あつてお茶の上へのせんごせつごまのりのお茶さんお二  
 坊へ今お版のてんごをいねいますうとねえさんお茶お茶  
 坊やおれでやるとねえさんお茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶  
 坊やおれでやるとねえさんお茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶  
 坊やおれでやるとねえさんお茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶

紙初下口四

廿七

本小候の ちりりあつて 織出世  
 ちりりあつて ちりりあつて ちりりあつて  
 ちりりあつて ちりりあつて ちりりあつて  
 ちりりあつて ちりりあつて ちりりあつて



つとめておぼえなむ...  
あつちの女...  
あつちの女...  
あつちの女...



あつちの女...  
あつちの女...  
あつちの女...  
あつちの女...



あつちの女...  
あつちの女...  
あつちの女...  
あつちの女...

あつちの女...  
あつちの女...  
あつちの女...  
あつちの女...













第九

だもあけべ  
棒の雨降

雑色（いろどろ）の伸（のび）男（おとこ）ぶら（ぶら）い（い）細（こ）と（と）け（け）の  
新（あらた）形（かたち）の（の）色（いろ）織（おり）の  
赤（あか）あ（あ）ま（ま）ま（ま）

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに

雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに  
雨の降るに  
男の歩むに  
女の歩むに  
傘の持たしに  
馬の歩むに  
人々の歩むに



ちやき入すのりニシロのわがうて  
さけはるなまをりひつひて  
のまがけはるのこごさうも  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて

あけり  
えんま  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら



ちやき入すのりニシロのわがうて  
さけはるなまをりひつひて  
のまがけはるのこごさうも  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて  
さうなまをりひつひて

あけり  
えんま  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら  
まら

第十

寐耳子... 中東屋の夜情歌

三年月古... 山崎



Vertical text columns on the left side of the illustration, including the characters '和諸軍'.

Vertical text columns on the right side of the illustration.



Vertical text columns on the left side of the illustration.

Vertical text columns on the right side of the illustration.





のまはけい...  
 ちのち...  
 とれと...  
 女が...



女が...  
 ちのち...

女が...  
 ちのち...  
 女が...  
 ちのち...



女が...  
 ちのち...





初めの...  
 さく...  
 その...  
 の...  
 ま...  
 ふ...

○ 風流...  
 ○ 中町...  
 ...  
 ...  
 ...



鹿嶋講中之記 初編二冊近刻

卯五月申旬作者か...  
 ...  
 ...  
 ...

十返舎一九著  
 歌川美丸畫

